

# 2009 社会・環境報告書



## はじめに

2005年度からスタートした「第一次環境中期三カ年計画」に続き、本報告書である2008年度では、地球環境保全に対する取り組みの更なる向上を目指し、「第二次環境中期三カ年計画」（2008～2010年度）を策定いたしました。

これからの3年間、地球環境の負荷低減のために、あらゆる事業活動で地球温暖化防止と資源循環に積極的に取り組む環境経営を進めて参ります。また、環境経営のより一層の充実・向上と併せて、法令遵守、企業倫理の徹底などの内部統制システムの充実や社会貢献などを踏まえ、企業の社会的責任を担い、社会の公器にふさわしい企業体質の構築に努めて参ります。

本報告書において、その進捗状況をご報告するとともに、自らの反省の材料とし、今後の取り組みへの糧として参りたいと考えております。

### 本報告書の対象範囲と対象期間

本報告書では、2008年度（2008年4月1日から2009年3月31日まで）の活動についてご報告いたします。

マネジメントおよび社会との関わりの部分（P.7～13）につきましては基本として綜研化学グループの活動状況、環境との関わりの部分（P.14～21）につきましてはグループ国内各サイト（東京本社・狭山・浜岡）での活動状況のご報告となっております。

なお、実績データ等は上記対象期間のものとなっておりますが、一部に比較のため過去の実績および将来の目標値なども併せて記載しております。

### 編集方針

綜研化学グループの「社会・環境報告書」は、今回で4回目の発刊となりました。

日頃から当社グループを支えて下さるステークホルダーの皆様へ、事業活動に伴い発生した社会・環境活動についての説明責任を果たすため、「正確な情報を分かりやすく伝えること」を編集方針の根幹におきました。編集にあたりましては、昨年度報告書のアンケート結果や皆様からのご意見・ご指導なども参考とさせていただきます。

なお、本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン2007年度版」を参考にしております。

## Contents

はじめに	1	社会的側面	9
トップメッセージ	2	お客様・取引先の皆様とともに	9
特集	3	株主・投資家の皆様とともに	10
研究所から見る 社会を支える“研究開発力”	3	従業員とともに	11
次世代に、化学の種をまく。	5	地域の皆様とともに	12
経営的側面	7	環境的側面	14
マネジメント	7	綜研化学グループの環境保全への取り組み	14
基本理念	7	環境マネジメントシステム	15
コーポレート・ガバナンス	7	第二次環境中期三カ年計画	17
コンプライアンス	8	第二次環境中期三カ年計画の取り組み状況	18
		ステークホルダーからのご意見	22

## 「環境保全を追求したもののづくり」を目指します。

2008年は、地球温暖化による気候変動の激化、原油など資源の高騰、そして世界的経済不況への突入など、今後の社会の在り様を大きく考えなおさねばならない状況となりました。

経済状況が厳しい現状において、当社グループはコンプライアンスをはじめコーポレート・ガバナンスの維持・充実を図りつつ、社会の変化に対応した事業内容に変革していく重要な基軸として環境保全を掲げ、今こそ技術力の真価発揮のときと気持ちを新たにして、業績の向上と企業体質の強化に鋭意取り組んでおります。

今年度、重点をおいた取り組みとしましては、省資源・省エネルギー並びにエコエネルギーの利用や資源循環を追求した環境配慮型の製品づくりとCO<sub>2</sub>削減であります。製品づくりでは新製品開発や生産技術において成果を挙げ、今後にも期待がもてる状況にできました。CO<sub>2</sub>削減については削減努力に加えて生産量の減少もあり、総排出量は昨年に比べて減少しましたが、生産量に対する効率性では課題を残しました。

また、子ども達を相手にして理科教室を開きました。化学はおもしろいという声もあったようですが、次代を担う世代が科学技術に興味を持つことにお役に立つことができたら幸いであります。先生役の社員も学べたことがあり貴重な経験をさせていただきました。

以上のように環境保全を基軸にし、地域社会との連携を図りつつ、社員の企業人・社会人としての成長と前向きな姿勢を原動力として、企業として継続的に発展していくことによりまして、お客様をはじめ株主・投資家の皆様、お取引先、地域社会の皆様などステークホルダーの皆様からの信頼と期待に応えて参りたいと考えております。

代表取締役会長 **中島 幹**

代表取締役社長 **大岡 實**



# 研究所から見る 社会を支える“研究開発力”



## 研究所コンセプト

- 1 綜研化学グループの中核として、中長期の事業戦略を支える技術・製品開発ならびに事業創出のシーズ研究の拠点となります。

これまで各施設に分散していた分析装置や評価機器等を集約すると共に、研究開発と生産技術が一体となって開発に専念できる環境を整えています。これにより、中長期戦略を見据えた効果的な研究開発が可能となります。

- 2 地域社会と調和し、かつ電子材料分野をはじめ先端技術分野で活動しているイメージの外観建物とします。

当初より「見える研究所」として設計されており、顧客や地域社会などの方々の見学を積極的に受け入れています。2008年度は319名の方が見学しました。

- 3 地球環境問題に積極的に取り組みます。

研究所では環境負荷低減を配慮した設備を整えるとともに、ISO14001を軸に、原料から廃棄物まで化学物質取り扱いに関する環境リスクの低減を推進しつつ、環境負荷低減、省エネルギーに向けたテーマを掲げ、開発に取り組んでいます。

## 新規事業への挑戦

中長期的視野に基づいた、未来のニーズを先取りした様々な研究開発をしています。中でも、将来を見据えた電子ペーパーや太陽電池についての研究開発は、石油原料などの天然資源の大量消費から脱却するためのイノベーションの一端を担う、夢を現実にする研究です。未来の社会になくてはならない存在になるべく、今も確かなシーズに基づいた新しいものづくりへの挑戦が続いています。

## 環境配慮型製品への重点指向

粘着剤では、お客様の要望への迅速な技術対応を続けると共に、環境に配慮し、脱トルエンシリーズの開発や「シロップ型」の粘着剤の研究を行っています。有機溶剤を使用している粘着剤についても、有機溶剤の使用量を減らした“高不揮発分型粘着剤シリーズ”の開発を手がけています。

特殊機能材については、無溶剤機能性樹脂「アクトフロー®」の品揃え、微粉体については、生産技術的側面から製造工程で発生するエマルジョン排水の削減や製品の収率アップ、粉体化工程での使用エネルギー削減の技術開発に取り組んでいます。

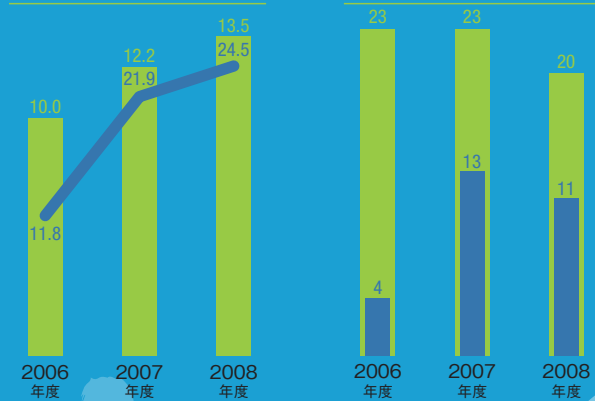
**綜** 研化学の製品は、日常の暮らしの中で表からすくには見えません。しかし、その製品の用途は例えばものを接着させたり、光を拡散させたり、ものの風合いを変化させたりと多岐に亘り、薄型テレビや携帯電話、家電製品から自動車、建材や化粧品に至るまで日常の隅々にまで用いられています。

それらの製品のベースとなっているのは、創業理念である「技術を通して社会に貢献する」という精神を具現化する研究開発力です。この経済的逆境下においても、新製品比率30%を目標に研究開発費を確保し、中でも中長期的視野に基づいた基礎研究に重きを置いています。また、特許出願や研究発表を奨励するとともに、自発的に研究に打ち込める体制づくりに努めており、テーマ提案制度も設けています。

これらにより、他社に真似できない製品づくりと新技術の開発を可能とし、業容拡大を図ることを研究開発の目的としています。

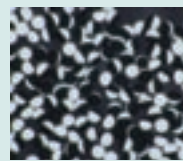
### 研究開発関連指標

研究開発費 (■ 単位: 億円)  
 新商品売上比率 (■ 単位: %)  
 特許出願件数 (■ 単位: 件)  
 特許登録件数 (■ 単位: 件)

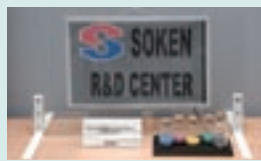


### ツイストボール型電子ペーパー

新しい微粒子作成技術を用いて、ツイストボール（上下白黒2色のプラスチック微粒子）の開発に成功しました。これにより微小な電力で表示でき、軽量かつ視野角に優れた安価な電子ペーパーの開発がまた一歩前進しました。



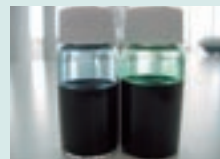
直径0.1mmのツイストボール



表示パネル試作品

### 有機系太陽電池材料開発

電気を流すプラスチックや太陽光を電気に変換する効率を高める有機色素の開発に成功しました。これらの材料を組み合わせることで色素増感型太陽電池を作ることが可能となります。



有機溶剤可溶性導電性プラスチック



フレキシブル太陽電池

### 粘着剤関連

#### シロップ型粘着剤

有機溶剤を使用しない商品で、加工時にUV（紫外線）を照射させることにより、硬化するタイプ。製造工程から、使用後の廃棄段階まで有機溶剤ガスを発生することがありません。CO<sub>2</sub>削減、省エネルギーなどの面で優れた商品群です。

#### 高不揮発分型粘着剤

有機溶剤の使用量をこれまでの粘着剤より減らすことで、使用時に発生する有機溶剤ガスも削減できる環境にやさしい粘着剤となります。保管・輸送コスト削減の面でも優れた商品群です。

### 加工製品関連

#### JETテープ

シロップ型の粘着剤を使用した高接着強度を実現した製品です。耐久性・耐候性にも優れ、幅広い温度に対応できます。

### 特殊機能材関連

#### 無溶剤機能性樹脂アクトフロー®

製造工程において有機溶剤を使用しない製品で、VOC（揮発性有機溶剤）対策製品など、環境対応型の素材として利用されています。

# 次世代に、化学の種をまく。

子ども達に化学で感動を伝えるため、半年がかりの理科教室を開きました。



## 社員が先生に！？ 綜研化学の新たなる取り組み

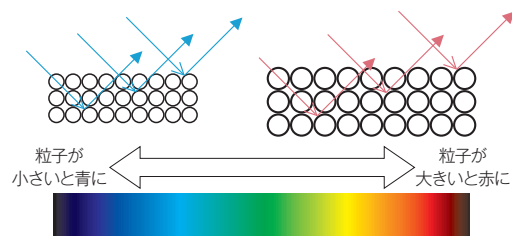
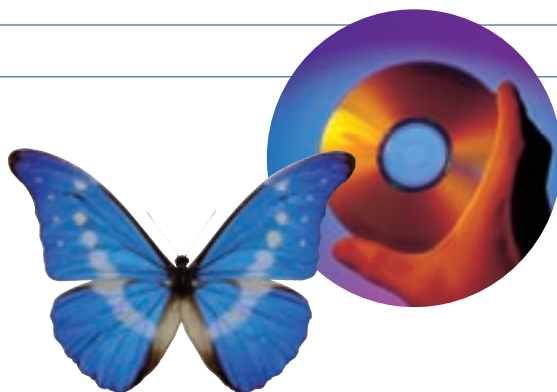
黒色の液体を筆でプレートに塗りつけると、赤や青や緑など多彩な色が表れてきて「おっ！」と、子どもたちの歓声があります。それを見つめるのは、先生役の高村を始めとする6名の綜研化学の社員たち。社会人が教える理科教室の一風景です。

この理科教室は、経済産業省が文部科学省と連携して行っている「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」の一貫で、実社会と理科を結びつけるべく、地域企業の研究者・技術者などが特別講師として小学校の生徒を教える取り組みです。子ども達の理科への関心を高める理科実験プログラムを作成し、地域一体となった次世代科学技術人材育成を狙って行われています。「社会人が教える理科教室」と言っても、普段研究開発を行っている社員は子ども達とどのように接したら良いのかもわから

ないため、プログラムを通して何ヶ月もかけて、子ども達の興味を引く授業内容や、授業の仕方を学びます。そうしてプロジェクトメンバー6名が創り上げた授業は、いつしか文部科学省から小学校の授業単位として認められるレベルにまで高められたのです。満を持して2009年1月29日に千葉県成田市の成田市立玉造小学校6年生36名に向けて行われたのは「構造色」の実験でした。モルフォチョウなど生き物の持つ不思議な色の仕組みを解明し、人工的に作り出した構造色を実際に筆で描いたり、色を予想したりと、楽しさを感じる試みを盛り込みました。自然の仕組みを科学の力で応用できることを、実体験を通して学び取る子どもの活き活きとした姿が見られました。子ども達だけでなく、参加した社員も研究を捉えなおすきっかけにもなりました。

## 驚きの色“構造色”とは？

色には、太陽や炎のように自分で光る光源色と、光に照らされている物体色があります。物体色のうち身の回りにあるほとんどのものは、変化がない表面色ですが、モルフォチョウやタマムシ、シャボン玉やCDなど光の角度によって変化する色を構造色と呼びます。構造色はナノレベルの構造体が規則的に何層も並んだときに現れる珍しい色で、構造体の大きさや並び方で色が変わります。綜研化学では、独自の技術力を生かし、構造体として粒子を用いて構造色を人工的に作り出すことに成功し、筆で書いただけで不思議な構造色を楽しむ試みが可能となりました。



- ①規則的に多層に配列することで構造色になる
- ②粒子の大きさで発色が変わる



筆でプレートに構造色をつけると、色とりどりの色に。

実験教室ができるまで

### 研究者募集 学校募集

コーディネーターが参加企業向けに事業の説明。授業のタイトルを決め、教育庁を通じて実施校の募集を開始。

### 研修

コーディネーターが実施する実験教室を見学。コミュニケーションスキルの定着を図り、さらに教育効果の高い授業案を作成するための研修会を実施。

### 企画開発

教育コーディネーターのサポートの下、各企業がオリジナル理科実験プログラムを開発。

### 事前打合せ から実施へ

プログラムの説明及び教育現場のニーズ調査のため、教員との事前調査打ち合わせを経て実験教室を実施。



## 「化学の力で子ども達に感動を与える」を社会貢献の柱に

この取り組みに参加したのは、綜研化学が創業60周年を機に、何か社会に貢献できることはないかと考えた結果、子ども達の理科離れという社会問題に対して、事業を生かして「自分達の力で子ども達に感動を与えたい」と考えたためでした。実際に化学の力で製品を開発している自分達だからこそ、理科の本当の面白さを伝えられると信じていました。そんな折、この社会人講師活用型教育支援プロジェクトの話をいただき、参加を決めました。社内に参加を募ったところ、6名の社員が手を挙げ、足掛け半年に及び取り組みがスタートしました。

一番重要なのは、子ども達をいかに感動させるかということでした。ヒントは、副社長の川瀬が聞いた話にありました。その話は、東京工業大学の渡辺教授が研究していた人工的な構

造色で作ったタマムシを部屋に飾っていたところ、訪問者がそれを見て夢中になったというものでした。この話から、自社で生み出した人工的な構造色で子ども達に理科の楽しさを伝えようと考えたのです。

「化学の力で子ども達に感動を与える」という取り組みを、今後の社会貢献事業の柱にしていくべく、狭山事業所において理科教室を開くなど、ノウハウを蓄積しています。今後は特に、事業所のある狭山や浜岡の地域の方々にも積極的に働きかけていきたいと考えています。この事業を通して子ども達に理科の楽しさを感じてもらい、いつしか科学の力で世界を幸せにできる大人が増えてくれればと願っています。

今日、特別講師の先生に来てもらって改めて理科がとても好きになりました。光ったりする絵を見て、「ほくも作ってみたい」と思いました。作り方を教えてもらおうと、とても難しかったのでびっくりしました。ほくもいつかこの液をつくってみたいです。  
参加生徒 Aさん

構造色が小さいつぶつぶでできていることがわかってすごいいいと思いました。構造色を持っている動物、生き物がわかりました。モルフォチョウやほかにも構造色をなんでもっているのか知りたいと思いました。  
参加生徒 Bさん

当日前一週間は最初の挨拶をどう話そうかずっと悩みました。子ども達に伝える視点で考えることで、シンプルにしてもちゃんと伝わるのだとわかりました。普段の研究開発にも生かせそうです。  
綜研化学 高村里佳

化学って  
すごい！  
おもしろい！  
＜参加者の声＞

授業作りをすることが、会社でやっている研究を自然の探求という視点で捉えることにつながり、研究が改めて楽しくなりました。  
綜研化学 坂下雅代

子ども達や教師に新鮮な風を入れてもらえました。本物を目にしている子ども達も積極的に学習をすることができていました。  
担任 A先生

こうぞう色のことは今日、初めて知りました。いろいろな角度から見たら違う色に見えました。なんで角度が変わるだけで、色が変わるのかとっても不思議でした。  
参加生徒 Cさん

## マネジメント

### 基本理念

#### 経営理念

綜研化学グループは、1948年の創業以来「**技術を通して社会に貢献する**」という精神を基本理念として企業活動を続けております。

当社グループの存在価値を継続して高めていくために、取り組むべき姿勢を端的に表現する言葉として、2002年4月に現在の経営理念を制定しました。

この経営理念のもとに、グループを構成する一人ひとりが常に自覚し、強く意識して実践していきます。

#### 経営理念

1. 私たちは常に誠実であるとともに、創造と工夫に情熱と責任を持って挑戦し続けます。
2. 地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供します。
3. お客様には心からの満足、株主の方々には共感を、そして私たちは働く喜びを実現していくことに最善を尽くします。

2001年の株式公開を契機に、本格的な連結経営のコンセプトを明示し、エクセレントな企業集団としての求心力となるよう策定しました。

今後とも、連結経営の効率向上とグローバル化の推進を進め、企業集団としての存在感を高めていきたいと思っております。

#### グループコンセプト

独創性のある研究開発・技術力により国内外に高機能・高品質のケミカルズを提供し、綜研化学が中核となってグループ企業の力を結集することで成長し続ける企業集団。

従業員の一人ひとりが経営理念を前提に、自ら進んで「今何が必要か」、「何をすべきか」を考え、それを行動に移す（＝働く）ことがより必要とされます。

人間として誠実であり、自らを律し、自立的に行動できる従業員の集合体となることによって、確固たる存在感ある企業集団として国内外から高く評価されるグループを目指します。

#### 行動指針：自ら進んで働こう

- 自分で考え、自ら生み出した価値が、最上の価値である。
- 常に社内・社外に目を向け、人の話を謙虚に受け止め、最後は自分で決断する。
- 自分で決断した事は、信念と勇気を持って必ず実行する。

### コーポレート・ガバナンス

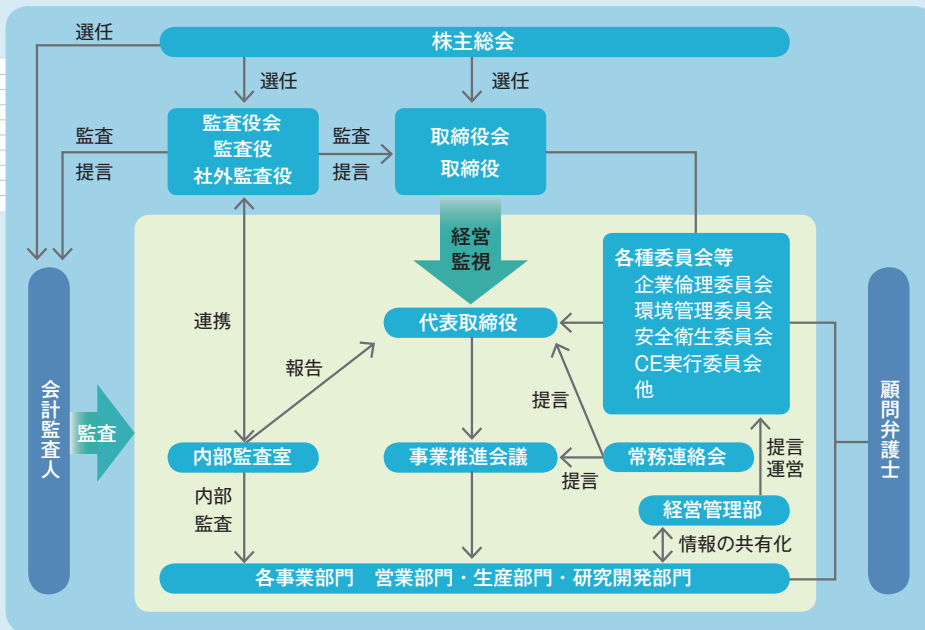
#### 内部統制システム

当社は適切な企業統治の充実・徹底を図ることにより、企業としての社会的責任を果たし、関係する皆様から信頼をいただけるよう努めていくことを基本方針としております。

具体的には内部統制システム構築の基本方針を2006年5月15日の取締役会において決議し、その後の進展を踏まえ内容の整備・明確化を図り、2008年9月24日および2008年12月24日の取締役会において必要な改訂を決議し、以下の9項目を基本指針として取り組んでおります。

- ① 取締役会および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
- ② 取締役の職務の執行に関する情報の保存および管理に関する体制
- ③ リスク管理を適正に推進するための体制
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制
- ⑤ 当社およびその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ⑥ 財務報告の信頼性を確保するための体制
- ⑦ 監査役の適正監査を確保するための体制
- ⑧ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および使用人の取締役からの独立性に関する事項
- ⑨ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその体制整備状況



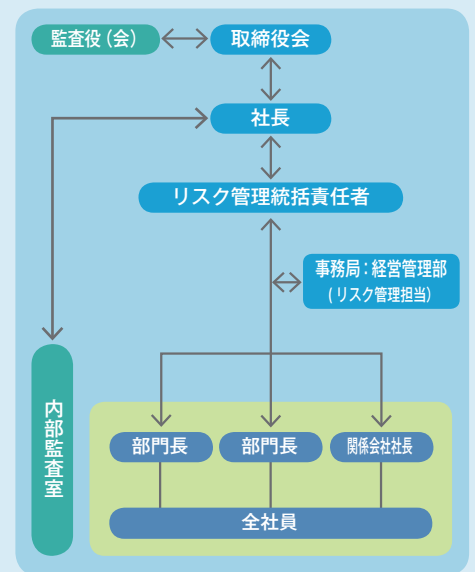


## リスク マネジメント

内部統制システム構築の一環として、「損失の危険に関する規程その他体制」の整備に取り組んでおり、「リスク管理規程」および「リスク管理マニュアル」を制定しています。

また、リスク管理の実践的運用を図るため、

- 法令・規制等に違反することにより信用を失墜し、または損害を蒙るリスク
  - 災害や事故、情報システムの機能停止等により、業務執行が阻害されるリスク
  - 事業所等における安全衛生・環境保全に問題が生じるリスク
  - 生産立地、品質保証、技術導入、研究開発等における目論見・基準を下回るリスク
  - 為替・金利動向などの経済環境の変化、財務活動に伴って損失を蒙るリスク
  - 競争環境、他社との連携、合併・買収、事業統合、海外事業、資材調達、債務保証等各種契約に係る経営上のリスク
  - その他取締役会が極めて重大と判断するリスク
- について、リスク管理の責任と権限を明確にし、対策の有効性について検証しています。あわせて、事業存続に深刻な影響を及ぼす恐れのあるものについては、危機管理対象として取り組んでいます。



## コンプライアンス

### 倫理綱領

法令遵守体制の基礎として、企業倫理綱領および倫理行動基準を定め、その遵守徹底を図るため、2005年よりCSRカードとして全役職員が携帯するようにし、あわせて啓発教育を実施しています。

また、社長を委員長とする企業倫理委員会を2008年度は4回開催し、日常的に法令遵守状況をチェックするとともに、取締役会への状況報告と提言を行っています。

### ヘルプライン 制度

企業倫理ヘルプライン規程に基づき、従業員等からの通報または相談により、法令違反・不正行為等による不祥事の早期発見、予防および再発防止のためのヘルプライン制度を確立し、運用しています。通報者本人の保護や匿名性を確保するとともに、自浄能力の維持・向上に努めています。

## お客様・取引先の皆様とともに

綜研化学グループは、ケミカルズ製品の研究・開発のノウハウと、製品化・量産化するためのエンジニアリングの技術を活かし、お客様の様々なニーズに迅速に対応することを目指しています。また、開発・生産・提供の過程の中で「お客様との信頼関係を大切にすること」を信念としています。

### 主要製品



粘着剤

液晶テレビ、自動車、家電、コピー機、電子材料など、幅広い産業分野の製品に使用されています。約300品種のラインナップを持ち、様々な用途に対応できる製品を用意しております。



微粉体

液晶テレビ、化粧品、バスタブ、キッチンカウンターなどの生活用品から、インキ、塗料、フィルムなどの材料にまで使用され、粒子サイズもミクロンからナノの世界へと広がり、その用途・機能はますます拡大しています。



特殊機能材

印刷インキ、包装材料から、液晶やプラズマテレビ用の電子材料まで、時代のニーズに適応した素材作りをしています。

液晶やプラズマテレビ用の光学用特殊テープから建築・建材向け構造用粘着テープまで、幅広い用途で製品に付加価値を与えています。

加工製品



綜研テクニクスが担当しており、自社ノウハウを基本とするバッチプラントのコンサルティングから建設・メンテナンスに至る業務に、最適なソリューションを提供しています。

装置システム



### 環境配慮のためにN-MAM（N-メチロール アクリルアミド）事業から撤退

長年にわたり製造・販売を続けてきた重合性のビニル基と縮合性のメチロール基を持つ水溶性モノマーであるN-MAM製品は、製法上の理由から製造過程でホルムアルデヒドが生成することに加え、製品中にも残留ホルムアルデヒドが含まれています。このホルムアルデヒドの危険性ならびにそれに伴う規制が年を追うごとに厳しくなっております。そのため、当社でも健康・安全および環境配慮の観点からこの問題を重要視し、2008年度をもってN-MAM事業から撤退しました。

# 株主・投資家の皆様とともに

綜研化学グループは、経営理念の一つに「株主の皆様からの共感を実現していくことに最善を尽くします」を掲げ、適時的確な企業情報を開示し、高い信頼性と透明性の保持に努めています。

## IR活動

経営の透明性を高め、企業の説明責任を果すため、綜研化学ホームページでの情報公開、年2回の決算説明会の実施、FACTBOOK・ビジネスレポートの発行などを行っています。

また、株主の皆様との双方向のコミュニケーションが重要と考え、定時株主総会後には懇談会の場を設けております。綜研化学グループの方向性を伝える場としてだけでなく、株主の皆様の声を直接お聞かせいただける場として役立てています。



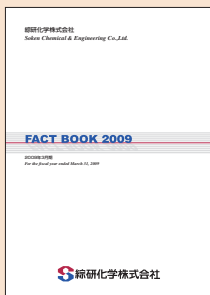
株主総会



株主懇談会



第2四半期決算説明会



FACTBOOK



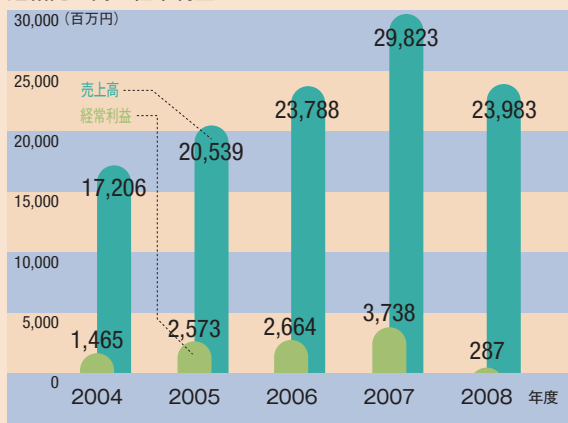
ビジネスレポート

## 利益配分に関する基本方針

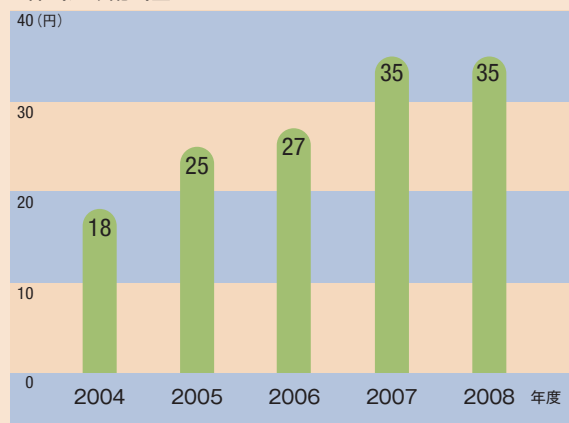
株主に対する利益還元を重要政策の一つと考え、配当水準の向上と長期的で安定的な配当に努めることを基本方針としています。そのため事業拡大や技術革新に対応した設備投資および研究開発投資を行い、新製品・新技術の開発・量産化に努め、会社の競争力を維持・強化し、収益力の向上、財務体質の強化を図っております。

2008年度の利益配当金につきましては、当期の業績は大幅な減益となりましたが、利益配分に関する基本方針、今後の事業環境ならびに内部留保の状況等を総合的に勘案し、前期と同額の1株当たり35円といたしました。また、株主・投資家の皆様にはホームページにて適時適切に情報を掲載しております。

### 連結売上高・経常利益



### 1株当たり配当金



## 従業員とともに

綜研化学グループは、従業員が安全・快適な職場で、働きがいを持って仕事ができるように努めています。

### 働きやすい職場環境のために

女性従業員の管理職への任用（2009年3月31日現在：1名）や、十分な勤労意欲を持つ定年退職者を再雇用する制度の導入、非正規社員から社員登用する機会を設けています。

海外子会社の人材の育成につきましては、中国子会社から研修生を受け入れ、狭山事業所にて工場実習を通してモノづくりの考え方や技術を習得できるようにしています。

従業員の状況（2009年3月31日現在）

	2006年度	2007年度	2008年度
従業員数（連結）（単位：人）	629	739	768
従業員数（単体）（単位：人）	205	204	220
男性	173	170	182
女性	32	34	38
平均年齢（単位：歳）	39.7	38.4	38.5
平均勤続年数（単位：年）	11.9	10.1	10.6

### 労働安全衛生について

労働安全衛生への取り組みについては、労働安全衛生法を遵守し、各職場の安全および衛生管理を維持向上するため、労働安全衛生マネジメントシステムを柱として安全衛生推進本部会を組織し、具体的な計画と対策を積極的に推進しています。

### 60周年記念事業について

2008年は創立60周年という節目の年にあたり、以下の記念事業を行いました。

● 60周年記念式典（2008年8月31日～9月1日）

綜研化学グループの結束力の強化、コミュニケーションの円滑化、誇りや働きがいを実現できるような場として、1泊2日の記念旅行を兼ねて、熱海後楽園ホテルにて記念式典を開催しました。

● 60周年特別功績表彰（2008年9月1日）

広い視野でFPD（フラットパネル・ディスプレイ）関連市場への粘着剤の拡販のため部門を牽引し、的確にニーズを把握・対応し、社内増産体制の構築に取り組み大幅な収益向上に貢献した4名の方がグループとして表彰されました。

● 記念論文・キャラクターの募集と優秀作品の表彰（2008年9月1日）

創立60周年として、論文・イラスト・写真を募集したところ、論文39点、イラスト5点、写真3点の計47点の応募があり、その中から優秀作品を選び、表彰しました。

また、綜研化学グループをイメージしたキャラクター作品の募集も行ったところ、従業員だけでなく、ご家族からもたくさんのご応募をいただきました。応募総数は109点になり、その中から8点の入賞作品を選出、表彰しました。



60周年記念式典：会長式辞



60周年特別功績表彰



記念論文・キャラクターの優秀作品表彰

# 地域の皆様とともに

綜研化学グループは、事業を通じた社会貢献に加え、事業所が所在する地域との積極的な交流に努めています。

## ボランティア活動

狭山事業所（埼玉県）、浜岡事業所（静岡県）では、地域のボランティア活動に従業員が参加しています。

### 狭山事業所

#### 狭山市入間川七夕まつりクリーンボランティア（2008年8月2日～3日）

狭山事業所では、七夕まつりの清掃活動に毎年参加しています。今回は、若手社員を中心に綜研化学グループの従業員18名が参加しました。

「ごみのないきれいな入間川七夕まつり」をキャッチフレーズに、会場の美化を心がけ、会場に設置されたゴミ箱への袋の設置、ゴミ袋の交換、ゴミ箱の分別チェックを中心にクリーン活動を行いました。

#### 堀兼・上赤坂の森クリーン作戦（2008年11月9日）

豊かな自然が残された埼玉県狭山市堀兼・上赤坂の森の清掃活動に、毎年参加しています。今回は、綜研化学グループの従業員17名がボランティアとして参加しました。

当日は、NPO団体や狭山市の企業、近隣住民の皆様と協力しながら周辺のゴミ拾いを行い、約700名で約4トンのゴミを収集しました。

### 浜岡事業所

#### 平成20年度 緑のボランティア植樹事業（2008年11月15日）

静岡県御前崎市役所の呼びかけで行われた植樹活動に、綜研化学グループの従業員17名が参加しました。

近年、海岸の防災林としての役割を担う松林が松くい虫被害により急激に枯損しています。その松林の復元と地域環境の保護・保全を行うために、松のほかに広葉樹のエズリハ、ツバキ、クスノキなどの苗木を1,000本植えました。



狭山市入間川七夕まつりクリーンボランティア



堀兼・上赤坂の森クリーン作戦



緑のボランティア植樹事業

## 表彰

#### 狭山市消防長 感謝表彰（2008年4月23日）<sup>(1)</sup>

綜研化学の従業員が3月22日の早朝、埼玉県狭山市柏原で発生した火災において、災害の拡大に身を挺し、消火・通報に協力しました。その功績に対し、狭山市消防長より感謝状をいただきました。

#### 第22回粉体工業功績者表彰（2008年5月26日）<sup>(2)</sup>

㈱日本粉体技術協議会より、製造技術を通じて数々の成果をあげ、粉体工業の発展に著しく貢献した業績が評価され、狭山綜研の従業員が表彰されました。

#### 平成20年度優良労働者表彰 善行表彰（2008年11月21日）<sup>(3)</sup>

㈱所沢地区労働基準協会連合会より、職場の安全衛生管理の向上に努力を払い、労働災害防止に尽くした功績が評価され、綜研化学の従業員が表彰されました。

#### 平成20年度化学工学会技術奨励賞（2009年3月19日）<sup>(4)</sup>

㈱化学工学会の化学工学会賞として「マイクロチャンネルを用いたPLD用2色粒子の開発」という研究業績に対し、綜研化学の従業員が技術奨励賞を受賞しました。



(1) 綜研化学(株) 狭山事業所  
狭山総務部 服部千代子



(3) 綜研化学(株) 狭山事業所  
狭山総務部 安立一雄



(2) 狭山綜研(株) 製造部  
製造2G 塩畑俊男



(4) 綜研化学(株)  
PLD事業推進PJ 高橋孝徳

## 緑化活動

環境に配慮した事業所を目指し、緑化活動を推進しています。狭山事業所では駐車場の一部を、浜岡事業所では新たに増設した駐車場に緑地スペースを作りました。



浜岡事業所

## 「元気なモノ作り中小企業300社」に選出

「元気なモノ作り中小企業300社」とは、経済産業省中小企業庁が、モノ作り中小企業の更なる奮起と躍進を期待し、また若年者を中心にモノ作り分野に対する関心を持つきっかけとなるよう、特に優れた技術を持つモノ作り中小企業300社を選定したものです。



経済産業大臣感謝状贈呈式

## インターンシップの実施

当社グループでは、毎年大学生のインターンシップを実施しております。

この制度では、学生の皆さんに研修として実際の職場で日常業務の一端を担当していただきます。2008年度は、韓国の漢陽大学の学生1名を含む3名の大学生を受け入れました。



展示会の取材を行うインターンシップ生

## 防災訓練

綜研化学グループでは各事業所で、地域の皆様や従業員の安全を確保するために、防災対策に積極的に取り組んでいます。特に、大地震や火災など緊急事態を想定した防災訓練は、従業員全員が参加しています。

### 本社（2008年10月17日）

本社1階屋外駐車場に自衛消防隊を設置し、防災訓練を実施しました。全体訓練実施後、消火器、AED（自動対外式除細動器）、三角巾の使用方法等を実践的に学習しました。

### 狭山事業所（2008年6月9日、2008年10月20日）

工場、研究棟、事務棟のある狭山事業所では年2回、防災訓練を実施しています。

春季防災訓練では、大震災が発生したという設定のもと、従業員と工場の安全を確保すると同時に、交通手段等が限られた場合の対処方法、帰宅手順等を確認しました。秋季防災訓練では消火器訓練、緊急救命訓練（AED他）、安全教育等を実施しました。

### 浜岡事業所（2008年6月16日、2008年11月10日）

大規模な製造設備と事務所のある浜岡事業所では、昨年度から訓練を年2回（春・秋）実施することで一層の災害・事故への対応強化を推進しています。

春季防災訓練では、牧之原市御前崎市広域施設組合消防署との合同訓練を行いました。工場で扱っている溶剤（トルエン、酢酸エチル）を燃やし、粉末消火器を使用した消火訓練等を実施し、操作方法を確認しました。秋季防災訓練では外部講師のもと、「火災爆発の怖さ」というテーマで安全体験研修や泡消火設備の説明等を行いました。



浜岡事業所防災訓練

## 綜研化学グループの 環境保全への取り組み

綜研化学グループ  
2009 社会・環境報告書

綜研化学グループの環境保全活動は、ISO14001環境マネジメントシステム導入準備期間を経て、本格的に活動を開始してから7年が経過しました。その間「地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供します」を経営理念として、すべての従業員があらゆる業務で安全・品質と同等レベルで「環境に優しい商品開発」「環境に配慮した行動」に取り組んできました。2005年には「第一次環境中期三ヵ年計画」を、そして2008年3月には新たに「第二次環境中期三ヵ年計画」を策定し、全社一丸となって環境方針、および環境中期三ヵ年計画に沿って積極的に施策を展開し、環境保全活動を推進しています。

### 環境方針

綜研化学グループは、独創的な研究開発・技術を追求する研究開発型企业として、粘着剤、微粉体、特殊機能材等の高機能ケミカルズ、それを応用した加工製品および装置関連事業等の事業領域で、環境保護を指向した製品を開発し、生産・販売活動に努めます。社員一人ひとりが地球環境に配慮した企業活動を行い、環境保全に努め、社会に貢献します。

#### 基本方針

1. 全員参加のもとに環境保全活動を進め、継続的な改善と環境汚染の予防に努めます。
2. 関連する法令等の要求事項を順守するとともに、高い倫理観と良識をもって社会的責任を果たします。

#### 行動指針

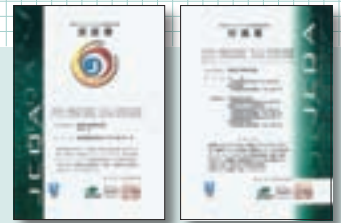
1. 事業活動や製品が環境に与える影響を評価し、環境改善の目的および目標の設定と、見直しを含め環境改善を進めます。
2. 省エネルギー活動を主体とした「地球温暖化防止」と3R（リデュース、リユース、リサイクル）による「資源の循環」に取り組みます。
3. 化学物質による汚染の予防など、環境リスクの低減に努めます。
4. 環境にやさしい製品の開発に努めます。

2008年6月25日  
綜研化学株式会社  
代表取締役社長

大岡 實

## 環境マネジメントシステム

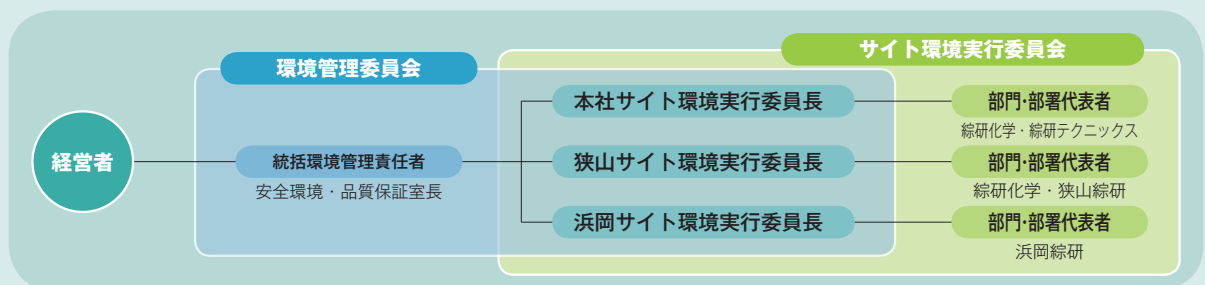
綜研化学グループのISO14001環境マネジメントシステムへの取り組みは、2002年3月の狭山サイトの1996年版認証取得から始まっています。2003年3月に国内全グループに拡大し、2006年3月には2004年版へ移行しています。



ISO14001認証書

### 環境管理推進体制

本社、狭山事業所、浜岡事業所の3サイトを単位とし、サイトの独自性を尊重しつつ機能的に活動できるよう環境管理委員会を中心として相互の情報交換、全社統一活動の推進を図っています。



### 内部監査

全部署を対象に、資格認定された監査員による内部監査を年1回行っています。2008年度は「環境活動において部署・部門の目的・目標が全員に周知され活動として定着しているか」「環境影響評価は滞りなく実施されているか」他全5項目を重点項目として実施しました。確認された問題は、重要度により不適合、要改善、提案の各事項に分類して被監査部署にフィードバックされ、各部署で改善が行われました。

2008年度内部監査結果

指摘レベル	指摘件数
不適合	7
要改善	35
提案	41

### 環境保全投資

洗浄溶剤の蒸留回収促進、騒音対策、有機ガス臭気対策など、約1億6千7百万円を投資し環境保全を進めています。厳しい経済状況ではありますが、2009年度以降も積極的に環境保全投資を継続していきます。

### 環境苦情発生とその改善状況 (総発生件数：3件)

狭山サイトで3件の環境苦情が発生しており、いずれも処置は完了しています。

1. [騒音] 夜間、事業所内でのバイクのエンジン騒音 当事者に厳重注意し、再発防止の指導を行いました。
2. [臭気] 近隣住民より異臭を感じたとの申し入れ 発生源は特定できませんでした。指摘いただいた方に調査内容を説明してご了解いただきました。
3. [臭気] 事業所近傍の工事業者の臭気苦情に基づく 市役所からの申し入れ 発生日から時間が経っており、発生源は特定できなかった旨を市役所に報告しました。

### マネジメントレビュー

統括環境管理責任者は、一年間のグループ全体の環境活動に係わる重要課題、施策の達成度と進捗状況を経営者に報告しています。経営者は報告内容を確認し、マネジメントシステムの向上、継続的改善に関する具体的な指示をしています。統括環境管理責任者は、指示事項をグループ全体にフィードバックし、環境保全活動に反映させています。

#### 経営者からの指示事項

- ①「環境保全投資とその有効性評価」による「環境経営」の更なる推進をすること。
- ②「作業環境改善のための粉じん発生源対策」を推進すること。
- ③統括管理責任者は、「設備安全審査」に係わる環境影響評価を把握し、経営者に報告すること。
- ④「環境活動に関する評価」を多面的に把握し、全社で情報を共有化すること。

### 環境不適合<sup>\*1</sup>とその改善状況 (総発生件数：4件)

狭山サイト2件、浜岡サイト2件の計4件について、再発防止対策を講じました。

#### ●狭山サイト

1. [届出遅延] 埼玉県条例「炭化水素類発生装置」設置届の届出遅延装置設置時のチェック体制を徹底しました。
2. [臭気] 強臭気物質数百mlをこぼし、悪臭を発生させた 作業員：管理者に作業手順厳守を指導しました。

#### ●浜岡サイト

1. [漏洩] 溶剤蒸留回収作業時、バルブ誤操作で溶剤を漏洩させた 作業前点検の確認徹底を図り、操作ミスを防止する手順としました。
2. [届出遅延] ボイラーを設置後、御前崎市への届出遅延チェック表を掲示し、担当者・管理者が届出納期管理を行うこととしました。



## 著しい環境側面★<sup>2</sup>の管理状況 (総発件数：5件)

著しい環境側面として特定している項目は、狭山サイト3件、浜岡サイト2件の計5件です。これらは手順を定めて管理しています。

### ●狭山サイト

#### 1. 放爆槽からの有機ガスの排出

重合反応中の事故等で、反応装置から放出されるガスの外部拡散を防止するため、放爆槽と呼ばれるタンクを設置しています。放爆槽には冷却管を設置し、ガスを凝縮・捕集して外部への排出を防いでいます。

#### 2. 微粉体製造時の廃水管理

微粉体製造時の廃水を一時保管するタンクからの漏洩を防ぐため、操作手順書を制定し管理しています。

#### 3. インシネレーター（直接燃焼排ガス処理装置）排気ガスの排出

加工製品製造時に発生する有機ガスを燃焼処理します。この際の操作手順を定め、燃焼不良を防止しています。

### ●浜岡サイト

#### 1. 製造棟で発生する廃溶剤の処理

装置の溶剤洗浄で発生した廃溶剤の蒸留回収を行い、洗浄用溶剤として再利用し廃棄物排出量を削減しています。

#### 2. 放爆槽からの有機ガスの排出

狭山サイト同様、放爆槽に冷却管を設置し、ガスを凝縮・捕集して外部への排出を防いでいます。

#### ★1 環境不適合

環境不適合とは、環境マネジメントシステムで定めたルールに違反していることをいいます。環境不適合が発生した場合、原因を追究し、二度と同じ不適合が起きない対策を実施する必要があります。

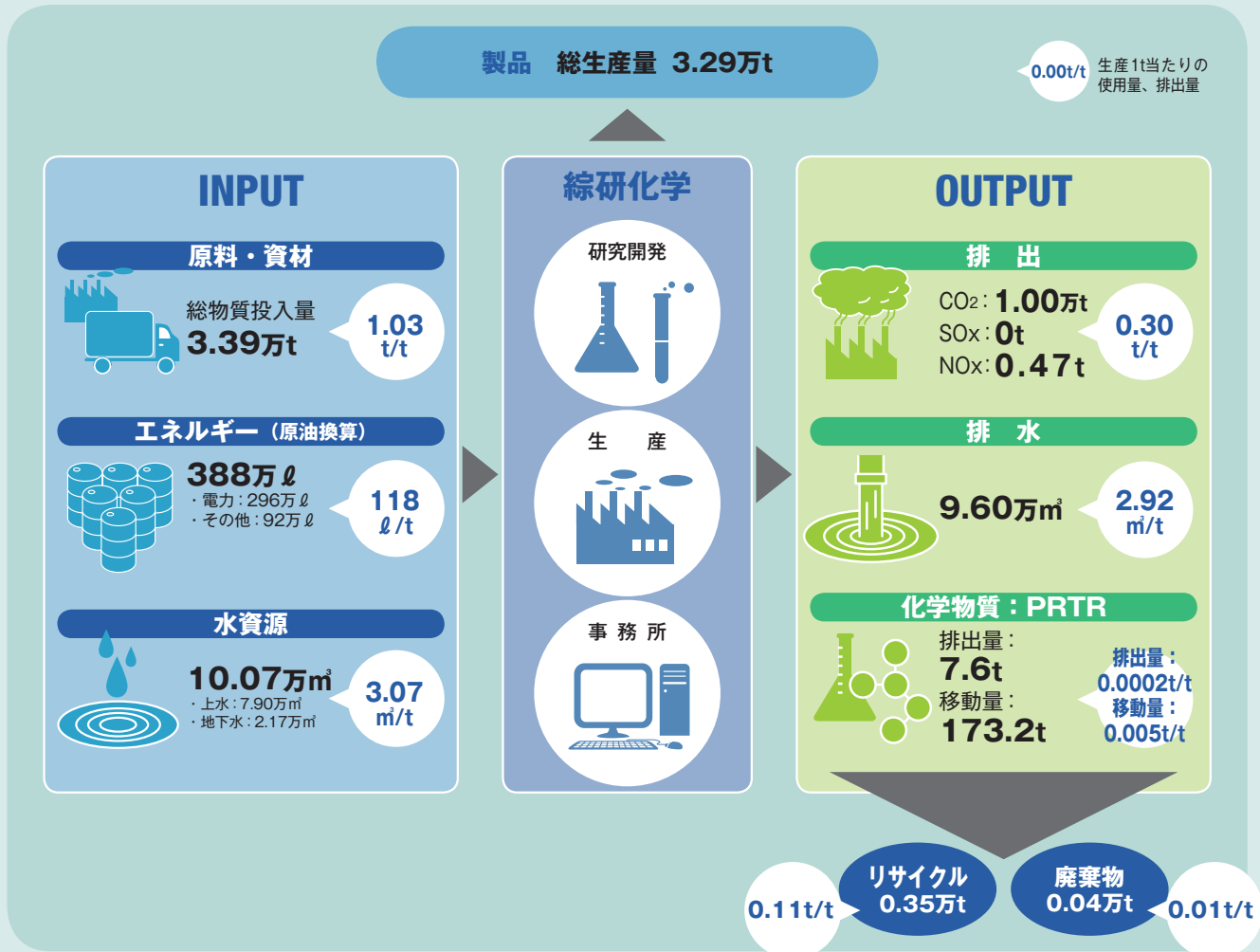
#### ★2 著しい環境側面

事業活動において顕在した、あるいは潜在している環境変化の原因となるものを「環境側面」といいます。この中で、環境に対する影響が特に大きく適切な管理が必要と判断したものを「著しい環境側面」として管理を行います。

#### ★3 マテリアルフロー

投入した全てのエネルギー・原材料・水資源などに対して、製品量・環境負荷物質・リサイクル量などの物質収支の関係を表現したものです。

## マテリアルフロー★<sup>3</sup>



## 第二次環境中期三カ年計画

綜研化学グループでは、2005年にグループ「第一次環境中期三カ年計画」を策定し、活動してきました。結果は必ずしも十分ではありませんでしたが、活動を通じて全従業員の「環境保全」に対する意識は、着実に前進してきました。

この「第一次環境中期三カ年計画」活動の内容を顧みて、2008年から2010年までの3年間で取り組むべき目標を再設定し「第二次環境中期三カ年計画」を策定しました。

### 環境中期計画の重要課題と目標

以下4点を重要課題として掲げ、中期目標を定めて推進します。

#### 1 環境配慮型製品・売上高比率向上の推進

2010年度  
売上高比率

15%

有機溶剤を使用しない、または使用量を抑制した環境配慮型製品の開発と提供に注力して取り組んできました。2010年度の売上高比率15%を目標に、環境低負荷を指向した製品開発を進めます。

##### ★環境配慮型製品

地球温暖化防止、化学物質による汚染防止、環境リスクの低減、資源循環、自然エネルギー・非枯渇資源の活用等地球環境の保全および社会の持続的発展に貢献する製品

#### 2 地球温暖化防止の推進

2010年度  
環境効率

6.0

2002年度比  
1.9倍

燃料転換・省エネルギー設備導入、エネルギー回収、廃棄物排出の低減などの活動を通じて、CO<sub>2</sub>排出量削減を図り、環境効率向上を目指します。

##### ★環境効率

綜研化学グループの環境効率の指標

$$\text{環境効率} = \frac{\text{生産高} \cdots \text{グループ内の生産量 (単位「t」)}}{\text{環境負荷} \cdots \text{CO}_2\text{排出量 (単位「t-CO}_2\text{)」}}$$

#### 3 化学物質による汚染防止および環境リスクの低減

- 1 臭気、VOC  
(揮発性有機化合物)  
発生源対策の実施
- 2 騒音発生源対策  
の実施

当社で大量に取り扱う有機溶剤が臭気、VOCとして環境汚染の原因になります。装置の密閉化、脱臭設備の増強等の作業環境改善を含めた発生源対策を推進します。生産活動に伴い発生する騒音については、法的基準値内を維持継続し、地域社会との共生および作業環境改善の観点から更なる向上を図ります。

#### 4 資源循環の推進

- 2010年度
- 1 再資源化率  
99%以上
- 2 ゼロエミッション  
達成

社内での洗浄溶剤再生による廃棄物の削減、微粉体製造プロセス見直しによる廃水の減量、社外での廃棄物リサイクルによる資源の循環利用推進等で資源循環型社会の形成を推進します。2010年度には、廃棄物の再資源化率99%以上、また、全廃棄物発生量のうち、最終的に埋め立て処分となる廃棄物を1%以下とするゼロエミッション達成を目指します。

##### ★再資源化率

綜研化学グループの資源循環の指標

$$\text{再資源化率} = \frac{\text{リサイクル量 (t)}}{\text{廃棄物量 (t)}} \times 100$$

# 第二次環境中期三カ年計画の 取り組み状況 グループ全体

綜研化学グループ  
2009 社会・環境報告書

2008年度は第二次環境中期三カ年計画の一年目として活動を行いました。しかしながら、昨年後半からの経済状況悪化の影響を受け、結果は必ずしも満足すべきものではありませんでした。

## 1. 環境配慮型製品

環境配慮型製品売上高比率の目標と実績

2008年度目標値 5.6%  
2008年度実績値 6.8%

2007年度（第一次環境中期三カ年計画最終年）の目標14.3%に対し、一般製品の大幅な伸びもあり実績は3.5%に終わりました。この状況を考慮し、第二次環境中期三カ年計画では、現実的な数値として一年目（2008年度）の目標を5.6%に設定しました。2008年度の実績は6.8%となり、目標を上回ることができました。アイテム別ではシロップ型粘着剤製品が前年度比約66%増と高い伸びを示しています。

目標と実績



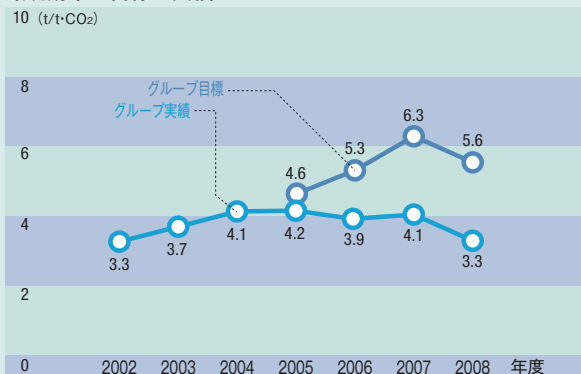
## 2. 地球温暖化防止

環境効率の目標と実績

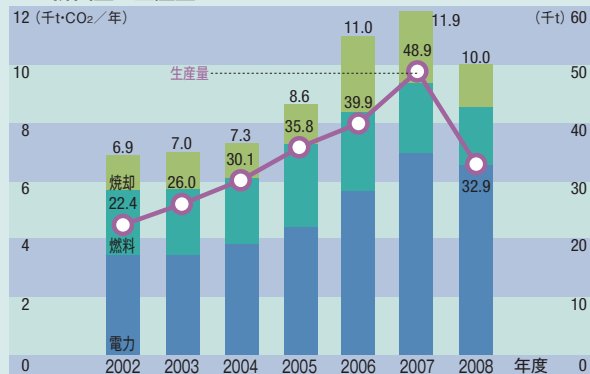
2008年度目標値 5.6  
2008年度実績値 3.3

CO<sub>2</sub>排出量削減のための施策として、浜岡サイトでの重油ボイラーの燃料転換、従来廃棄していた洗浄剤の蒸留回収推進による廃棄物削減を推進しました。しかしながら生産量が大きく低下したため、環境効率は3.3に低下しています。今後、グループ全体の約30%を占める非生産部門のCO<sub>2</sub>排出量削減についても取り組みを進めます。

環境効率の目標と実績



CO<sub>2</sub>排出量と生産量



## 3. 環境リスクの低減

綜研化学グループの環境リスク低減対策は、PRTR\*該当物質の把握と届出、毒物劇物業者としての管理の徹底、臭気・騒音対策などの法規制への適切な対応に加え、下記の体制で進めています。

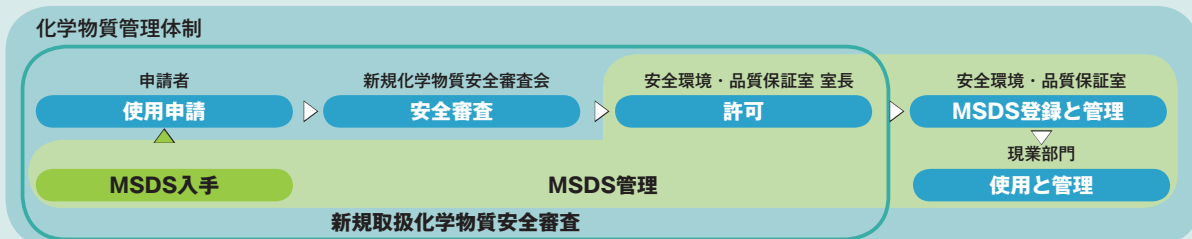
★PRTR

Pollutant Release and Transfer Register

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質の排出量と移動量を把握し、届け出る制度

### 1. 新規取扱化学物質安全審査

原材料使用開始に先立ち、MSDS（物質安全データシート）などの情報を基に審査を行います。審査の結果、安全な使用が可能と判定された物質は、従業員への教育を実施した上で使用を開始します。



第二次環境中期三カ年計画の取り組み状況  
グループ全体

3. 環境リスク  
の低減

2. 製品MSDSの提供

お客様に綜研化学グループの製品を安全にご使用いただくための情報として、全製品のMSDSを提供しています。

3. VOC（揮発性有機化合物）対策

VOC発生源の密閉化、脱臭設備の増強などの対策を実施しています。

4. 騒音対策

法的基準値内の維持継続に加え、夜間の自主基準値を設定して騒音発生源の密閉化、防音壁設置などの対策を実施しました。

5. 欧州RoHS指令\*等への対応

2008年5月より、原材料の全供給業者様と「綜研化学環境基準協定書」を締結し、当社指定の使用禁止物質が製品に混入しない体制を構築しました。

★RoHS指令

RoHS（ローズ）は、電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についての欧州連合(EU)による指令のことです。具体的には、鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・ポリ臭化ビフェニル・ポリ臭化ジフェニルエーテルの6物質の含有量が規制されています。

4. 資源循環の向上

再資源化率の目標と実績

2008年度目標値 94.0%  
2008年度実績値 89.8%

2008年度の廃棄物量は前年度比約58%減少しています。減少分の大半は、狭山サイトで排出し、資源循環されていた廃棄物でした。その影響で、再資源化率は89.8%に低下し、目標値94.0%に達しませんでした。

今後の取り組み

引き続き目標達成に向けて活動します。活動のツールとして、2009年度よりグループ内に拡大する「自進考働活動\*」を活用し、問題抽出、改善活動を進めていきます。

★自進考働活動

生産性向上・業務改善を目指した小集団活動で、「社員一人ひとりが日常業務の中で、挨拶・5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の実践と改善行動を実践して、働く者の感性・意識と組織風土を改革し、あるべき姿の実現と誰にも負けない競争力を実現する」ことを目標に活動します。

1. 環境配慮型製品

各アイテムで無溶剤型製品、溶剤使用量低減製品の開発と販売の強化を図ります。

2. 地球温暖化防止

生産部門でのエネルギー有効活用に加え、グループ全体の約30%を占める非生産部門の電力消費量削減によるCO<sub>2</sub>排出量削減を進めます。

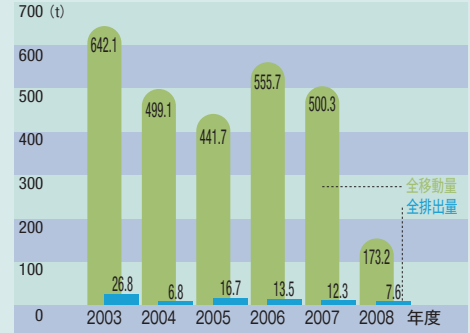
3. 環境リスクの低減

VOC・粉塵発生源対策などの社内の作業環境改善、低騒音設備の導入などの社外環境への配慮を進め、環境リスク低減を図ります。

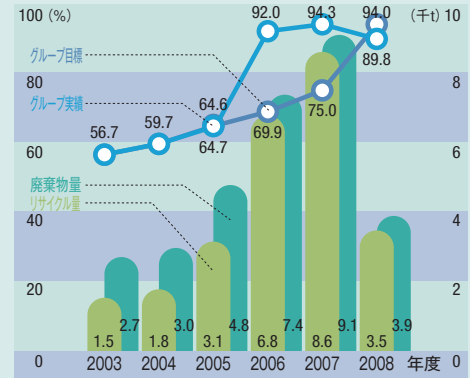
4. 資源循環の向上

溶剤蒸留回収・製品容器の再利用の推進、廃棄物のリサイクル処理を進め、再資源化率向上を図ります。

PRTR該当物質移動量および排出量



再資源化率の目標と実績



自進考働活動キックオフ

環境保全  
への  
取り組み

安全環境・品質保証室長 山岸 雅幸（統括環境管理責任者）

綜研化学グループでは、有機溶剤などの環境負荷物質の使用に伴い漏洩・拡散のリスクを有しており、また、通常の事業活動でもエネルギー消費、騒音や臭気の発生などで環境に影響を与えています。環境リスク・環境影響を最小限にするために、トップダウンの環境マネジメントシステム (ISO14001) とボトムアップの改善活動 (自進考働活動) の双方をツールとして活用しています。この活動は今後も終わることなく、継続していきます。



## 第二次環境中期三カ年計画の取り組み状況

### 狭山サイト

綜研化学グループ  
2009 社会・環境報告書

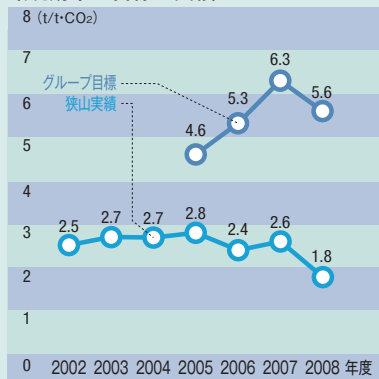
#### 1. 環境配慮型製品

綜研化学グループのマザー工場として、研究・開発部門と連携し、環境配慮型製品の開発を行っています。これまでに有機溶剤を使用しない省資源を指向した無溶剤型粘着剤、特殊機能材、加工製品などの環境配慮型製品の商品化を実現しています。

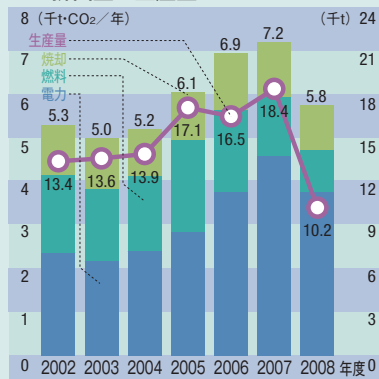
#### 2. 地球温暖化防止

非生産部門のエネルギー消費量の削減が進まなかったことや生産量の減少に伴い環境効率は1.8に低下し、目標達成はできませんでした。しかし、CO<sub>2</sub>排出量はボイラーの燃料転換による効果を含めて約20%減少しています。今後、非生産部門の電力使用量の大部分を占める研究棟の削減対策を進めていきます。

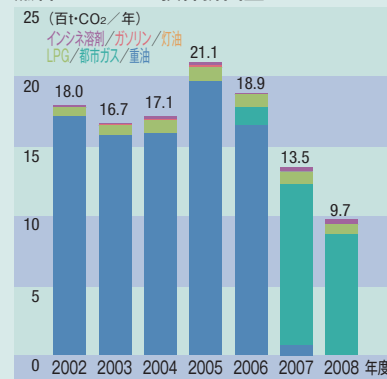
環境効率の目標と実績



CO<sub>2</sub>排出量と生産量



燃料からのCO<sub>2</sub>換算排出量



#### 3. 環境リスクの低減

- 1) 防音壁を設置し、近隣への騒音を低減しました。
- 2) 放爆槽★排出口を延長し、排出口からの臭気改善を図りました。
- 3) 洗浄溶剤蒸留回収設備の自動化により、廃棄物排出量削減を図りました。

##### ★放爆槽

放爆槽とは、緊急時に反応装置から放出されるガスを捕集し、外部への拡散を防止するタンクです。



N棟東防音壁



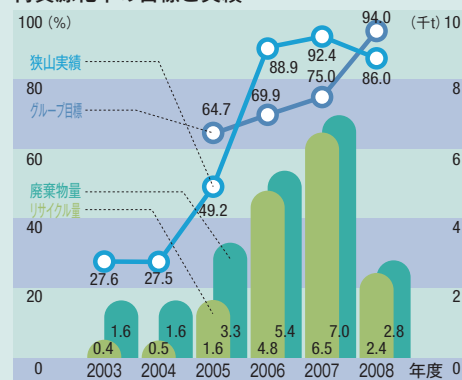
放爆槽排出口

#### 4. 資源循環の向上

2008年度の廃棄物排出量は前年比約60%減少しました。この大半は微粉体生産工程で発生する、従来資源循環されていた廃水が生産量の大幅低下で減少したことによります。一方、主に研究開発活動で発生し、資源循環できなかった廃棄物排出量は約20%の減少に止まり、これらの影響で再資源化率は92.4%から86.0%に低下しました。

また、洗浄溶剤の蒸留回収を進め、128トンを再利用し廃棄物削減に寄与しています。

再資源化率の目標と実績



#### 地域環境への配慮

##### 狭山事業所 狭山総務部長 安藤 敏仁 (狭山サイト環境実行委員長)

工業地域に立地する狭山サイトではありますが、周囲は住宅に囲まれ、地域の皆様方の生活の場で事業活動を続けています。その中で、地域との共生を図るため、生産活動で発生する騒音・臭気(VOC)に対し、防音壁の設置・放爆槽排出口の高さ改善などの対応をしてきました。今後、内部環境の改善が外部環境の改善に繋がるとの考え方にに基づき、低騒音設備の導入・VOC低減商品の開発など、環境リスクを元から絶つべく対策を進めていきます。



## 第二次環境中期三カ年計画の取り組み状況

### 浜岡サイト

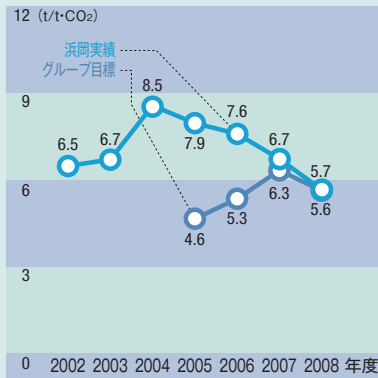
#### 1. 環境配慮型製品

綜研化学グループにおける中核生産工場として、環境配慮型製品の大量生産と高効率化を目指しています。無溶剤型粘着剤、機能材の販売増に対応し、狭山サイトから生産拠点の移行を進めています。

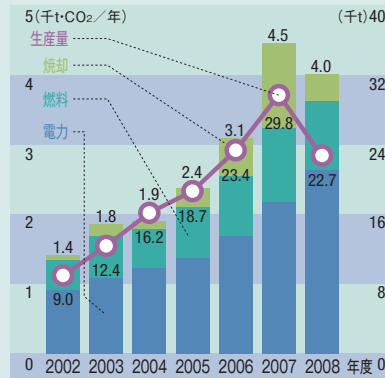
#### 2. 地球温暖化防止

生産量低下に伴う生産効率の低下で、環境効率は前年度6.7から5.7に低下しましたが、グループ目標を上回ることができました。また、CO<sub>2</sub>排出量は、重油からLPG（液化石油ガス）へのボイラーの燃料転換、溶剤蒸留回収の推進などの施策により前年比約10%減少しています。

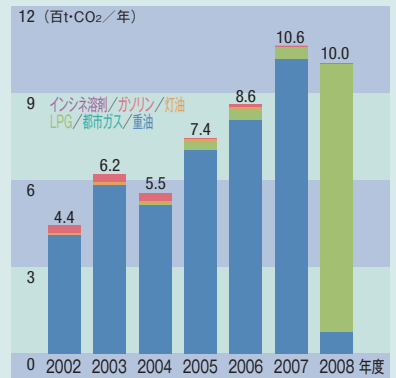
##### 環境効率の目標と実績



##### CO<sub>2</sub>排出量と生産量



##### 燃料からのCO<sub>2</sub>排出量



#### 3. 環境リスクの低減

- CO<sub>2</sub>排出量・煤塵発生量削減を図るため、ボイラーの燃料を重油からLPGに転換しました。
- 省力化された自動溶剤回収装置の稼働により、廃棄物量の削減を図りました。
- 製造棟のチラー（冷水製造装置）の冷却効率を高めたため、反応時の発熱制御がより安全に反応できるようにしました。



ボイラー



自動溶剤回収装置

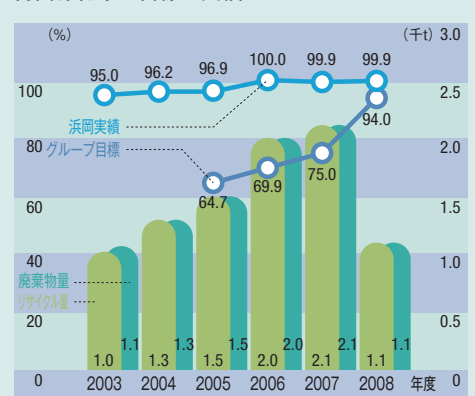


チラー（冷水製造装置）

#### 4. 資源循環の向上

廃棄物排出量は前年比約50%減少しました。また、洗浄溶剤の蒸留回収による再利用は年間約570トンとなり、再資源化率99.9%を達成しました。今後も資源循環の維持に努めます。

##### 再資源化率の目標と実績



## ステークホルダーからのご意見

当社の社会・環境活動について、本社サイト、狭山サイト、浜岡サイトのステークホルダーの皆様からご意見をいただきました。

### 本社 サイト



1948年に「技術開発により 社会に貢献しよう。」との志により、上野の地において創業され、「地球環境の保全」「社会に役立つ革新的製品の提供」などを経営理念とされています。綜研化学様と52年に「専門知識を生かして皆さんのお役に立ちたい」との気持ちで西新橋に創業し、「CSR経営」を標榜する弊社が、奇しくも豊島区高田の地で社屋を並べ、本業を通してのCSR活動に取り組んでいることは、不思議なご縁を感じます。特に貴社は、60周年を機に事業内容を生かして「子供たちに化学の楽しさを伝える」事業を行っているとのこと、弊社も大いなる刺激を受けているところであり、及ばずながらよき隣人としてCSR経営の充実に邁進してまいりたい所存です。変わらぬご指導ご鞭撻ならびにお付き合いをお願いします。

宝印刷株式会社 取締役常務執行役員（CSR 担当） 田村 義則様

### 狭山 サイト

綜研化学様は以前より環境美化に努めており、社員自ら近隣の雑草取りやゴミ拾いなど何十年も続けておられる配慮が地域から地球に広がった環境配慮を成しているのだと思います。事業においても製品容器のリサイクルの推進を始められ弊社もリサイクルの一部を協力させていただいております。近年企業の環境への取り組みは必須となってきております。そんな中での綜研化学様の地球環境への真剣な取り組みは、弊社にとっても大変良い刺激になります。今後も綜研化学様と一緒に環境への取り組みを強化してまいります。



株式会社 武井運送 代表取締役社長 武井 正人様

### 浜岡 サイト



これまでの社会・環境報告書を拝読し、綜研化学グループの経営理念を始め環境保全への取り組みと姿勢が判りやすく表現されており、ここ3年間地球環境の負荷低減のために、あらゆる事業活動で温暖化防止と資源循環に積極的に取り組む環境経営を進めてきたことが理解できます。

地域住民（消費者）の方々は、最近の企業の不祥事や企業間取引に関わるモラル不足に対して、異常なくらい敏感になっております。

地区内の工場などにおいて何が造られ、どのような環境保全への取り組みをしているか、また、公害防止対策や環境事故の未然防止対策などがどのように行われているかなどがうかがえます。

商工会も協力して、「この市に企業立地してよかった」と言われるよう、環境に配慮した取り組みを一層進化させ、今後とも地域社会の中での役割を果たしていきます。

社会・環境報告書が更に充実され、持続可能性の基に、社会、環境、経済をカバーした報告書に発展することを祈念します。

御前崎市商工会 事務局長 坂野 基様

## ご意見を受けて

社会・環境報告書としての発行は今回で4回目となりました。本報告書は、ステークホルダーの皆様へ、綜研化学グループが行った社会・環境活動の内容について、正確な情報をより分かりやすく伝えることを編集方針として進めてまいりました。本報告書を通じ、多くの皆様にご理解を深めていただければ幸いです。

2008年度からは、新たに「第二次環境中期三カ年計画」をスタートさせましたが、まだまだ不足の点があると認識していますので、皆様からの率直なご評価・ご意見をお聞かせ下さい。今後の企業活動や報告書の作成に反映していきたいと考えております。

経営管理部 和泉 潤



お問い合わせ先

綜研化学株式会社 経営管理部、安全環境・品質保証室

〒171-8531 東京都豊島区高田3-29-5 TEL.03-3983-3171 FAX. 03-3988-9216

URL : <http://www.soken-ce.co.jp> e-mail : [soken@soken-ce.co.jp](mailto:soken@soken-ce.co.jp)



## 表紙の絵について



本報告書の表紙絵は、障がい者ライブラリー「アートビリティ」に登録されている、三浦茂樹さんの作品「天までとどけヒマワリ」を使用させていただきました。

### ●アートビリティ

1986年に社会福祉法人東京コロニーが障がい者アーティストが自立し、自活することを支援するために設立したアートギャラリーで、作品の使用料がアーティストに還元されています。



この社会・環境報告書には、森林に配慮して適切に管理された森林認証用紙(FSC認証用紙)、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物性インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じくVOCを大幅に低減する水なし印刷が採用されています。